

○図表 31：適正受診・情報発信について

①コンビニ受診対策をはじめとした適正受診・情報発信について

取組	令和6年度実績	内容
市ホームページ掲載	通年	真に受診が必要な患者が救急医療を利用できるよう、市民に対し、日中のかかりつけ医の受診勧奨、不要不急の夜間・休日受診を避ける協力をお願い、また電話相談窓口(※)の活用による適正受診について啓発  ※福岡県小児救急医療電話相談「#8000」 福岡県救急医療電話相談「#7119」 市テレホンセンター「093-522-9999」
市政だより掲載	4回実施	
情報誌(フリーペーパー)掲載	3回実施	
市公式SNS(X・LINE)での発信	13回実施	
小中学校保護者用・母子手帳アプリでの発信	6回実施	

【出典】北九州市保健福祉局地域医療課調べ



コンビニ受診対策をはじめとした適正受診・情報発信を強化するか。  
 (例)・啓発キャンペーン実施  
 ・日本小児科学会ウェブサイト「こどもの救急」、アプリ等の活用  
 ・SNS等情報発信の強化など

○図表 32：適正受診・情報発信について

②テレホンセンターなどの本市の案内・相談機能について

(令和6年度実績)

	概要	件数
北九州市テレホンセンター (夜間・休日急患センター【馬借】内)	急な病気やケガに関する簡単な相談に看護師などが電話対応。また必要に応じて医療機関の案内も行う。	54,698件 (うち小児関係 約1万件)
福岡県小児救急医療電話相談 (#8000)	子どもの急な病気(発熱、下痢、嘔吐、痙攣等)、ケガに関する相談に対し、看護師、または必要に応じて小児科医がアドバイスをする平日夜間・休日の電話相談	非公開

【参考】小児救急4病院の時間外患者数について

病院名	R6時間外患者数 ①	①のうち入院患者 数 ②	入院しなかった患者	
			患者数③ (①-②)	割合(③/①)
市立八幡病院	23,068	1,206	21,862	94.8%
北九州総合病院	3,990	631	3,359	84.2%
国立小倉医療センター	7,514	1,976	5,538	73.7%
JCHO九州病院	4,593	512	4,081	88.9%

【出典】「小児救急ネットワーク部会」(北九州市主催)資料より抜粋



上記の患者数には夜間・休日急患センターなどでも診療が可能であった軽症患者も多く含まれる?

○小児救急4病院の負担を軽減するため、テレホンセンターなどの活用によるトリアージ機能を強化するか。(1次患者をいかに抑えていくか)  
 ⇒わかりやすいトリアージ基準のマニュアル作成など  
 ○子を持つ親の不安感を和らげる案内・相談機能をどうするか。

○図表 33：市立八幡病院の小児救急患者の受入状況について

(令和6年度)

区分	小倉北				小倉南		八幡東		八幡西		門司	若松	計
	市立 医セ	健和会	急患 センター	北九 総合	九州 労災	国立 小倉	製鉄 記念	市立 八幡	JCHO 九州	産医大	門司休日 急患診療所	若松休日 急患診療所	
外来患者数(※1)	5,670	256	3,568	6,435	2,386	23,080	545	45,880	17,280	9,712	785	730	116,327
うち時間外 患者数計	911	21	3,568	3,990	10	7,514	6	23,068	4,593	336	785	730	45,532
時間外患者数計に 占める割合	2.00%	0.05%	7.84%	8.76%	0.02%	16.50%	0.01%	50.66%	10.09%	0.74%	1.72%	1.60%	100%
深夜帯	169	10	69	964	0	1,939	0	5,012	1,198	80	0	0	9,441
深夜以外	742	11	3,499	3,026	10	5,575	6	18,056	3,395	256	785	730	36,091
入院患者数(※2)	549	0	0	1,332	179	3,929	6	3,253	2,271	792	0	0	12,311
救急車搬送 患者受入数(※3)	394	0	0	531	14	621	0	1,093	952	114	0	0	3,719

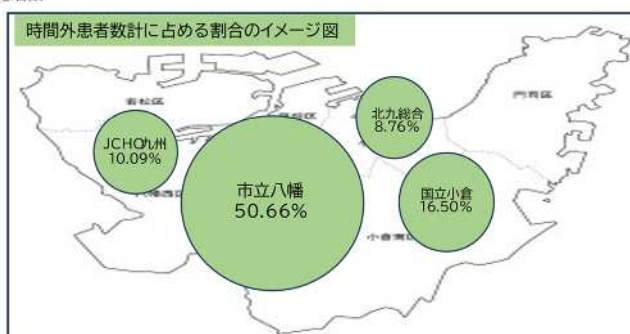
(※1) 外来の延患者数、(※2) 総入院患者数、(※3) 救急車にて搬送されてきた患者数

【出典】「小児救急ネットワーク部会」(北九州市主催)資料より抜粋

【時間外患者数の状況について】  
 ・小児救急ネットワーク4病院全体の時間外患者数は、時間外患者数全体の約86%を占めており、4病院の中でも、特に市立八幡病院の時間外患者数は、時間外患者数全体の約51%となっている。

※小児救急ネットワーク4病院・・・「北九州総合病院」、「小倉医療センター」、「市立八幡病院」、「JCHO九州病院」

【市立八幡病院の現状について】  
 ・夜間の当直者について、朝、予定どおり帰れないことがある。  
 ・夜間、特に深夜帯の患者が多く、疲弊の原因となっている。  
 ・当直医や中堅医師の時間外勤務時間が多くなっている。



○図表 34：時間外受診時に希望する医療機関（アンケート結果）について

【調査の概要】

- 実施主体:北九州市(「小児救急ネットワーク部会」に協議の上、実施)
- 実施期間:令和6年7月29日～8月18日
- 調査対象者:小児をもつ保護者
- 実施方法:市内の小児科医療機関、区役所等にアンケート依頼案内のチラシを配布し、電子(Graffer)にて回答を得た。
- 有効回答:2,025件

【質問項目:子どもが夜間休日に受診が必要となった場合、どのような医療機関希望するか】

	合計	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	市外
かかりつけの病院	644	42	127	159	58	57	139	36	26
夜間・休日に受診可能な診療所	1,177	65	220	321	122	108	227	75	39
検査・入院体制が整った病院	997	55	190	297	95	109	159	67	25
テレフォンセンター等で案内された病院	395	29	84	123	31	27	68	22	11
その他(※)	25	4	1	7	4	1	6	2	0

「夜間・休日に受診可能な診療所」を希望する回答が1,177件でトップであった。また次いで「検査・入院体制が整った病院」も半数近くあった。

○図表 35：小児救急医療体制に係る参考事例について

	医療機関名	形態	診療時間	概要
周山 南口 市県	周南地域休日・夜間こども急病センター (JCHO徳山中央病院内)	病院の一部	○夜間(休日を含む毎日) 19時～22時 ○休日(日・祝、12/31～1/3) 9時～12時 13時～17時 19時～22時	周南地域二次医療圏(周南市、下松市、光市)の小児科医が協力して、JCHO徳山中央病院にて、休日・夜間の小児初期救急医療を実施。JCHO徳山中央病院の小児科医が、常時、救急外来処置室においてバックアップ体制を取り、二次救急医療・入院医療などにあっている。
中大 津分 市県	中津市立小児救急センター (中津市立中津市民病院敷地内)	市立診療所	○平日 19時～22時 ○土曜 12時～22時 ○日・休日 9時～22時	周辺医師会や各大学、近隣病院の協力により、夜間・休日に急病となったこともを診療

【出典】各病院ホームページ等

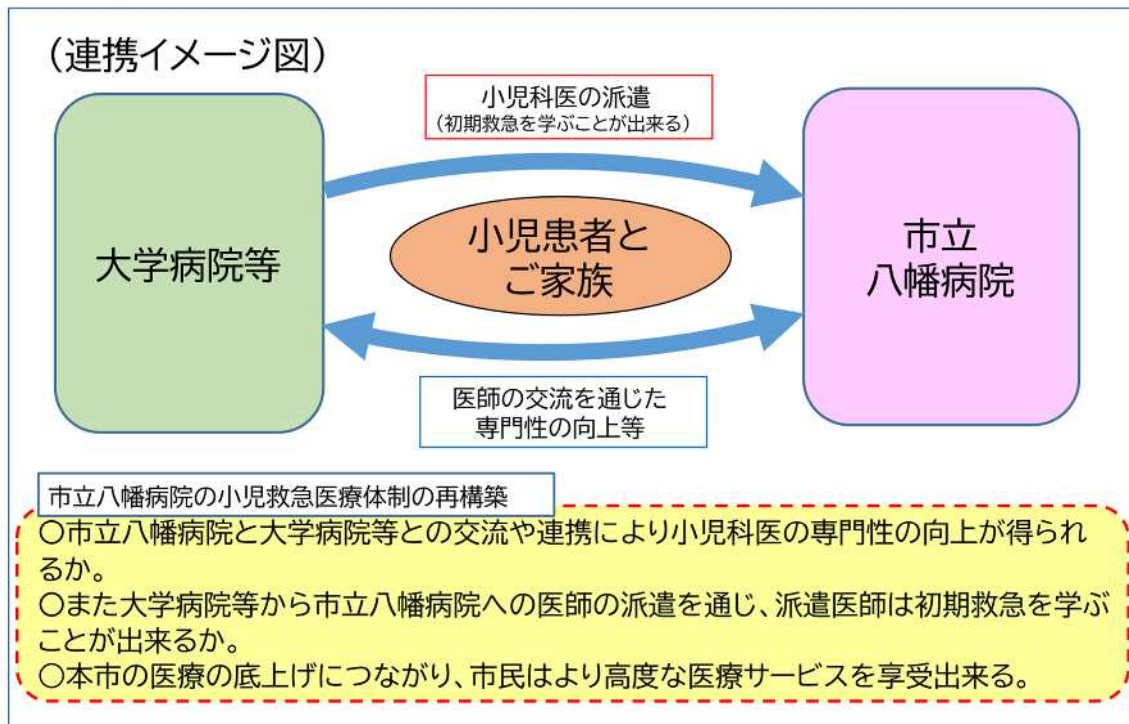
○図表 36：時間外の区民ごとの受診動向（アンケート結果）について

【質問項目：小児患者の住所区ごとの受診医療機関

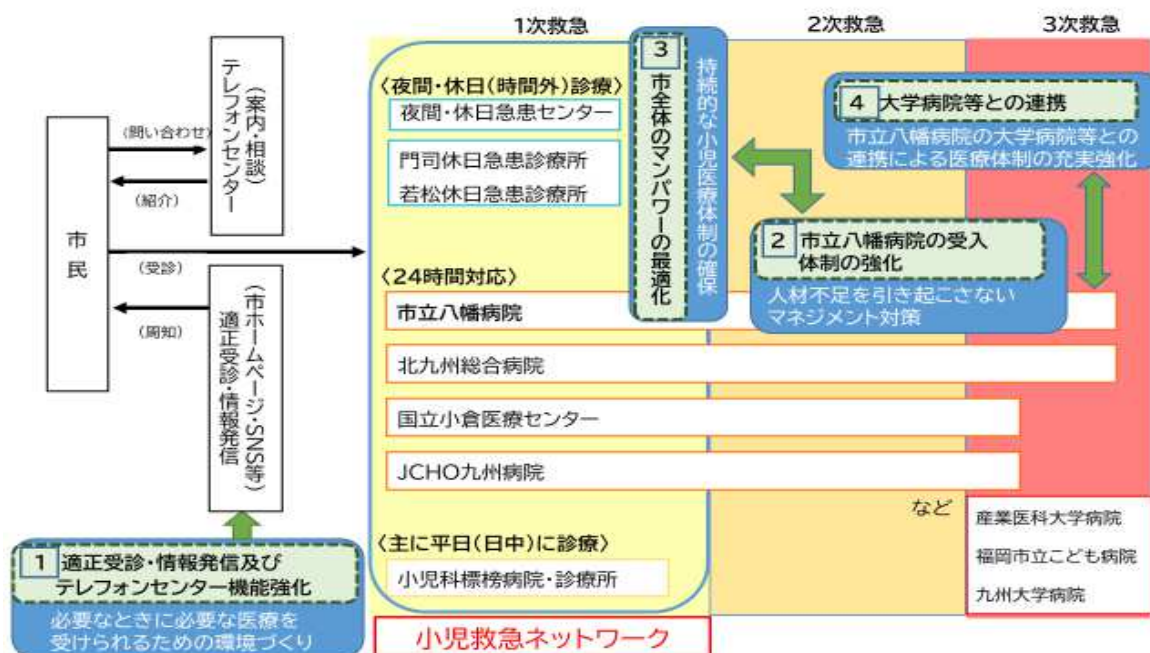
	総数	門司区		小倉北区		小倉南区		若松区		八幡東区		八幡西区		戸畑区		市外	
		患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)	患者(人)	割合(%)
門司休日急患診療所	39	36	18.9	2	0.4	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
夜間・休日急患センター	384	48	25.1	130	27.3	143	19.7	14	5.2	9	4.5	17	3.9	21	14.2	2	2.6
北九州総合病院	318	42	22.0	91	19.1	162	22.3	4	1.5	7	3.5	1	0.2	8	5.4	3	4.0
国立小倉医療センター	376	22	11.5	78	16.4	256	35.3	5	1.9	4	2.0	4	0.9	4	2.7	3	4.0
若松休日急患診療所	67	0	0.0	1	0.2	0	0.0	53	19.8	0	0.0	10	2.3	1	0.7	2	2.6
市立八幡病院	865	31	16.2	123	25.8	102	14.1	136	50.8	154	77.0	206	46.6	93	62.8	20	26.3
第2夜間・休日急患センター	74	4	2.1	8	1.7	4	0.6	14	5.2	6	3.0	33	7.5	5	3.4	0	0.0
JCHO九州病院	200	0	0.0	4	0.8	9	1.2	29	10.8	8	4.0	129	29.2	4	2.7	17	22.4
その他(※)	204	8	4.2	40	8.3	48	6.7	13	4.8	12	6.0	42	9.4	12	8.1	29	38.1
合計	2,527	191	100	477	100	725	100	268	100	200	100	442	100	148	100	76	100

(※)その他の病院(市外病院含む)など

○図表 37：市立八幡病院の大学病院等との連携について



○図表 38：「意見からうかがえる方向性」の体系図



○図表 39：第7回の主な意見まとめ

1	必要なときに必要な医療を受けられる環境づくり	<p>①テレフォンセンターは、利用しない、利用する可能性があるのに利用しない場合もある、それらのターゲットごとにアプローチを変え、マーケティング的に、一番効果がある。</p> <p>②実際に受診した患者が、#8000やテレフォンセンターを利用したかどうかなど調べて、どういった人が相談せずに受診したのかという情報が取れると、もしかしたら分かるかもしれない。</p> <p>③テレフォンセンターの利用等に係るデータを取って、整理することが、中期的に効果的な取組に結びつく気がする。</p> <p>④テレフォンセンター等に電話した患者が満足できるよう外来を受診した場合と同程度の説明を行うなど相談機能を充実させてはどうか。</p> <p>⑤一貫したマニュアルがあって、より適切な受診につながる案内・相談機能が働くことが大事。</p> <p>⑥テレフォンセンターばかりでなく、オンラインによる相談・トリアージが、小児領域で効果を上げていけるので、取り入れてみてはどうか。</p> <p>⑦若い人の情報の取り方が変わってきている。これから発展していくのはChatGPTやGeminiなど生成AI。業者がシステムを作成しているので活用しているのも1つの方法。</p> <p>⑧市立八幡病院の非常に困難な状況を、分かりやすい形で市民に伝えていくことが重要。他都市では、住民主体の適正受診を促す運動により受診抑制を促した事例がある。</p> <p>⑨軽症の緊急搬送の患者から運送費を徴収しているという事例も出てきている。そうした措置を取るべきかどうかというわけではないが、情報発信が、あまり効果がないようであれば、そういう政策の選択もあろう。</p>
2	人材不足を引き起こさないマネジメント対策	<p>①前回の検討会で、市立八幡病院の緊急外来の一部で、無承認等の対応のもと小児の初期救急を実施し、中等症以上の患者については、そのまま市立八幡病院で治療を行う提案をいただいたが、非常に驚愕らしいリクエストがある。</p> <p>②休日急診診療所の令和6年度の出稼数は、それぞれ71で合計142。その分の医師が集約できれば、市立八幡病院に応援できる。方向性を示すことで要請している市立八幡病院の先生のモチベーションが上がる効果があるため、ここから取り掛かる必要がある。</p> <p>③市立八幡病院に外からサポートが来るというだけで、ありがたい。今の状況からすると、できることが1つでも2つでも、できれば早いうちに実現していくことがポイントだと思う。</p> <p>④地域として医療体制をどう作るか、「市立八幡病院の経営をどうするか」、「国の診療報酬を含めた制度の働き」これら絡み合ったところをどう解いていくかがポイントだと思う。</p>
3	持続的な小児医療体制の確保	<p>①今の小児医療体制のまま持続していくのは少し、無理が来ている。 市内の小児救急の体制は、今のままだとバグるので見直しをして、その小児領域のマンパワーを市立八幡病院に集約する必要があるとの意見が前回の検討会で出ていた。</p> <p>②地域の医療の仕分けをどう持続可能性を確保しながら高度化していくかというときに住民や医師会を含めて、どうやって合意を取っていくかということも非常に重要。</p>
4	市立八幡病院の大学病院等との連携による医療体制の充実強化	<p>①市立八幡病院の小児科は、医師との連携が少なく、体系的に、教育を受けたり、学術活動を通じてブラッシュアップしているかという不安がある。大学との連携で、大学から先生が来て、指導してもらうのはありがたい。</p> <p>②市立八幡病院は、夜だけでなく、日中のマンパワー不足を少し感じようという場面がある。そういったことを含めて、大学が手伝えるところというか、連携を強めていくべきではないかと思う。</p> <p>③市立八幡病院が大変なところに、1次救急を集約化するのに外からカバーが入る。そして大学との連携ができて、その次にどうするかというところ、ゴールを決めないといけないが、ただ迅速に行うべきではなく、順序を持ってすすめるべきである。</p>
5	その他	<p>①資料1の小児救急患者の症状の程度については、国立小児医療センターの重症患者の受入割合が高くなってきているが、実際は、市立八幡病院も国立小児医療センターもあまり変わらない。市立八幡病院は、グレーゾーンの患者を入院させる余力がないのではない。</p> <p>②グレーゾーンの患者については、小児科医がセレクションして、大丈夫であろうという患者は、取ってないことがある。</p> <p>③参考資料4によると、子どもが夜間休日に受診が必要な場合希望する医師が夜間・休日に受診可能な診療所として指定された病院というように、一見するとニーズが分業しているように見える。一方、参考資料6の実際の受診医師数は、非常に大きな地域差がある。併せて考えると、回答者の住居地による差がそのまま出ているのではないかとと思う。回答者の住居データがあれば、クロス分析してみると、2つに分かれている理由が分かるのではないかと。</p> <p>④参考資料4の検査・入院体制が整った病院と「かかりつけの病院」というのは、ある程度同じと考えると、結果、かかりつけの病院というのは、検査・入院体制が整った病院。 患者がかかりつけと思ったら、他を推す。そこを受診する。</p> <p>⑤中学校の校医は内科の先生がほとんどだし、小学校は小児科医がやっていることだが、中学生以上は内科でも診ることは、可能か。少しでも小児患者の数が減ることになればよい。</p> <p>⑥市立八幡病院では、現在内科医が非常に少ない。また成人を診る内科が、小児科のサポートをするのは難しい。</p>

○図表 40：これまでの主な意見を踏まえた整理

<p>第6回意見から うかがえる視点 No</p>	<p><b>視点</b> 必要ときに 必要な医療を 受けられる環 境づくり</p> <p><b>方向性</b> 適正受診の啓 発・情報発信 やテレホンセ ンターなどの 案内・相談機 能を強化すべ きではないか。</p>	<p><b>第7回の主な意見</b></p> <p>①テレフォンセンターは、利用しない人は、利用しないし、利用する可能性があるのに利用しない場合もある。それらのターゲットごとにアプローチを変えたいのが、マーケティング的に、一番効果がある。</p> <p>②実際に受診した患者が、#8000やテレフォンセンターを利用したかどうかなど調べて、どういった人が相談せずに受診したのかという情報が取れると、もしかしたら分かるかもしれない。</p> <p>③テレフォンセンターの利用等に係るデータを取って、整理することが、中期的に効果的な取組に結び付く気がする。</p> <p>④テレフォンセンター等に電話した患者が満足できるような外来を受診した場合と同程度の説明を行うなど相談機能を充実させてはどうか。</p> <p>⑤一冊したマニュアルがあって、より適切な受診につながる案内・相談機能が働くことが大事。</p> <p>⑥テレフォンセンターはわかりやすく、オンラインによる相談・トリアージが、小児領域で効果を上げていけるので、取り入れてみてはどうか。</p> <p>⑦若い人の情報の取り方が変わってきている。これから変革していくのはChatGPTやGeminiなど生成AI、著者がスラムを作成しているので活用してみるのが一つの方向性。</p> <p>⑧市立八幡病院の非難に困難な状況で、分りやすい形で市民に伝えていくことが重要。他都市では、住民主体の適正受診を促める運動により病院側を促している事例がある。</p> <p>⑨軽症の救急搬送の患者から遠征診療費を徴収しているという事例も出てきている。そうした措置を取るべきかどうかというわけではないが、情報発信が、あまり効果がないようであれば、そういう政策の選択もありうる。</p>
<p>第6回意見から うかがえる視点 No</p>	<p><b>視点</b> 人材不足を 引き起こさな いマネジメン ト対策</p> <p><b>方向性</b> 小児科医のマ ンパワーを市 立八幡病院に 集約するなど、 小児1次救急 の受入体制を 強化すすべき ではないか。</p>	<p>①前回の検討会で、市立八幡病院の救急外来の一部で、問診医等の応援のもと小児の初期救急を実施し、中等症以上の患者については、そのまま市立八幡病院で診療を行う提案をいただいたが、非難に繋がらぬようリコミュニケーションである。</p> <p>②休日急患診療所の令和6年度の出稼額は、それぞれ71で合計142。その分の医師が集約できれば、市立八幡病院に応援できる。方向性を示すことで後押ししている市立八幡病院の先生のモチベーションが上がる効果があるため、ここから取り掛かるというのが必要。</p> <p>③市立八幡病院外からサポートが来るというだけでなく、ありがたい。今の状況からすると、できることが1つでも2つでも、できれば早いうちに実現していくことができればと思う。</p> <p>④「地域として医療体制をどう作るか」、「市立八幡病院の経営をどうするのか」、「国の診療報酬を含めた制度の動き」これら組み合わせたところをどう解いていくかということがポイントだと思う。</p>
<p>これまでの意見 を踏まえた検討 すべき対策(案)</p>	<p><b>対策(案)</b> ○適正受診の啓発・情報発信の強化を図るとともに、子を持つ親の不安感を和らげ、若い方がアクセスしやすい案内・相談機能の強化を図るために、これまでの意見を踏まえ、市民へのテレフォンセンター利用に係るアンケートなどの必要な調査を実施の上、例えば、 電話を利用する方がより満足・納得するための、 (1)医療専門職等によるきめ細かな電話案内・相談体制の構築 (2)適切な電話案内のための対応マニュアルの作成 電話を利用しない方へのアクセスを容易にするための、 (3)AIもしくはオンライン等を活用したDX案内・相談機能の構築 適正受診の啓発・情報発信を一層図るための、 (4)受診の目安や判断を促すウェブサイトやアプリ等を活用した情報発信 (5)SNS等による適正受診の啓発など情報発信強化やキャンペーンの実施 などの対策を検討していく。</p> <p><b>課題等</b> ○実施した対策について一定の効果が見られない場合は、将来的に、他の施策(例、遠征診療費徴収等)も検討。</p>	<p><b>期待される効果</b></p> <p><b>【市民への効果】</b> ○#8000やテレフォンセンターを身近に活用し、医療専門職等による案内・相談対応により、子を持つ親の不安感が知らず、適切な医療機関等の案内につながる。 ○電話相談以外にも、若い人がアクセスしやすいDX等を用いた案内・相談機能により、より多くの方が案内・相談を受けられることが出来る。 ○市がきめ細やかな情報を発信することで、市民は、必要な時に、必要な情報の提供を受けられることが出来る。 ○ご家族など大切な人が、もしもの時でも、安心して救急医療の提供を受けられることが出来る。</p> <p><b>【医療機関への効果】</b> ○適正受診が浸透することで、真に必要な患者に救急医療を提供することが出来る。</p>
<p>これまでの意見 を踏まえた検討 すべき対策(案)</p>	<p><b>対策(案)</b> ○市立八幡病院の小児1次救急の受入体制を強化するために、これまでの意見を踏まえ、同病院に「小児1次救急専用診療スペースの設置」などの対策を検討していく。</p> <p><b>課題等</b> ○市立八幡病院での対応協力医師の受入調整や委託方式などの検討。</p>	<p><b>【市民への効果】</b> ○市立八幡病院の小児診療体制が強化され、患者は医療スタッフ、設備が整った環境で受診が出来るため安全・安心につながる。 ○診療後、入院など高度な治療が必要になった場合でも、そのまま市立八幡病院で治療を受けることが出来る。</p> <p><b>【医療機関への効果】</b> ○市立八幡病院の医師の負担軽減が図れる(ひつ迫状況の緩和) ○入院医療、専門医療が必要となった患者へ小児科医のマンパワーを注ぐことが出来る。</p>

○図表 40：これまでの主な意見を踏まえた整理

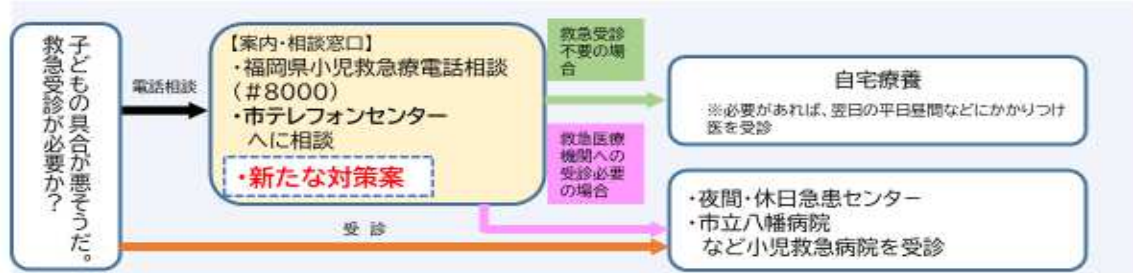
No	第6回意見からうかがえる視点及び方向性	第7回の主な意見	これまでの意見を踏まえた検討すべき対策(案)	期待される効果
3	<p><b>視点</b></p> <p>持続的な小児医療体制の確保</p> <p><b>方向性</b></p> <p>市全体で、小児科医のマンパワーの最適化を図ることにより、持続可能なものにすべきではないか。</p>	<p>①今の小児医療体制のまま継続していくのは少し、無理が来ている。</p> <p>市内の小児救急の体制は、今のままだとバンクするので見直しをして、その小児科医のマンパワーを市立八幡病院に集約する必要があるとの意見が前回の検討会で出ている。</p> <p>②地域の医療の仕組みをどう持続可能性を保ちながら高度化していくかというときに住民や医師会を含めて、どうやって合意を取っていくかということも非常に重要。</p>	<p><b>対策(案)</b></p> <p>○市全体として小児医療体制を持続可能なものにするため、市全体の小児科医のマンパワーの最適化策などを検討する。</p> <p>まずは、これまでの意見を踏まえ、休日急患診療所小児科の診療体制の見直しなどについて検討する。</p> <p>参考資料 3</p> <p>参考資料 4</p> <p><b>課題等</b></p> <p>○小児科医のマンパワーを最適化することによる市民や受け入れ医療機関への影響を最小限にしつつ、市民や医療関係者(医師会等)への理解・協力を得るための説明。</p>	<p><b>【市民への効果】</b></p> <p>○小児科医のマンパワーの最適化により、持続的な小児医療体制が確保されることで、市民は、子ども、孫など何世代にも渡って安全で安心な小児救急医療の提供を受けることが出来る。</p> <p><b>【医療機関への効果】</b></p> <p>○限られた小児科医のマンパワーを多くの小児患者が訪れる医療機関で生かすことが出来る。</p> <p>○市全体の小児救急医療体制により大きく貢献していただける。</p>
4	<p><b>視点</b></p> <p>市立八幡病院の大学病院等との連携による医療体制の充実強化</p> <p><b>方向性</b></p> <p>大学病院等との連携により、市立八幡病院の体制を再構築すべきではないか。</p>	<p>①市立八幡病院の小児科は、医局との関連が少ない、体系的に、教育を受けたり、学術活動を通じてブラッシュアップしているかという不安がある。大学との連携で、大学から先生が来て、指導してもらおうのはありがたい。</p> <p>②市立八幡病院は、夜だけでなく、日中の小児科医のマンパワー不足を感じているような局面がある。そういったことを含めて、大学が手伝えるところというか、連携を強めていくべきではないかと思う。</p> <p>③市立八幡病院が大学などと一緒に、1次救急を専門化するの以外からカバーが入る。そして大学との連携ができる。その次にどうするかというところ、ゴールを決めないといけないが、ただ迅速に行うべきではなく、順序を持ってすすめるべきである。</p>	<p><b>対策(案)</b></p> <p>○市立八幡病院の小児科医の確保や診療体制の強化を図るために、これまでの意見を踏まえ、市立八幡病院の若い医師が教育を受け、勉強できる機会の確保や、専門性の向上、医師の派遣を通じた初期救急の学びにつながる「大学病院等との連携策」などを検討する。</p> <p>参考資料 5</p> <p><b>課題等</b></p> <p>○大学病院等との連携方式の検討。</p>	<p><b>【市民への効果】</b></p> <p>○本市の小児医療の底上げにつながり、市民はより高度な医療サービスを受ける出来る。</p> <p><b>【医療機関への効果】</b></p> <p>○連携による小児科医の専門性の向上が期待できる。</p> <p>○大学病院等により医師の派遣がより期待できるとともに、大学病院等も初期救急を学ぶことが出来る。</p>

○図表 41：案内・相談機能の強化

1 目的・狙い

○子を持つ親の不安感を和らげ、安心して救急医療を適切に受けてもらう。  
 ○市立八幡病院をはじめとした小児救急病院における時間外の軽症患者・コンビニ受診患者を減らして、適切に救急医療を提供すること。

2 現状



3 新たな対策案

市民へのテレフォンセンター利用に係るアンケートなど必要な調査をした上で、子を持つ親の不安感を和らげ、若い人がアクセスしやすい手法による案内・相談機能など、今後、以下の対策案を検討する。

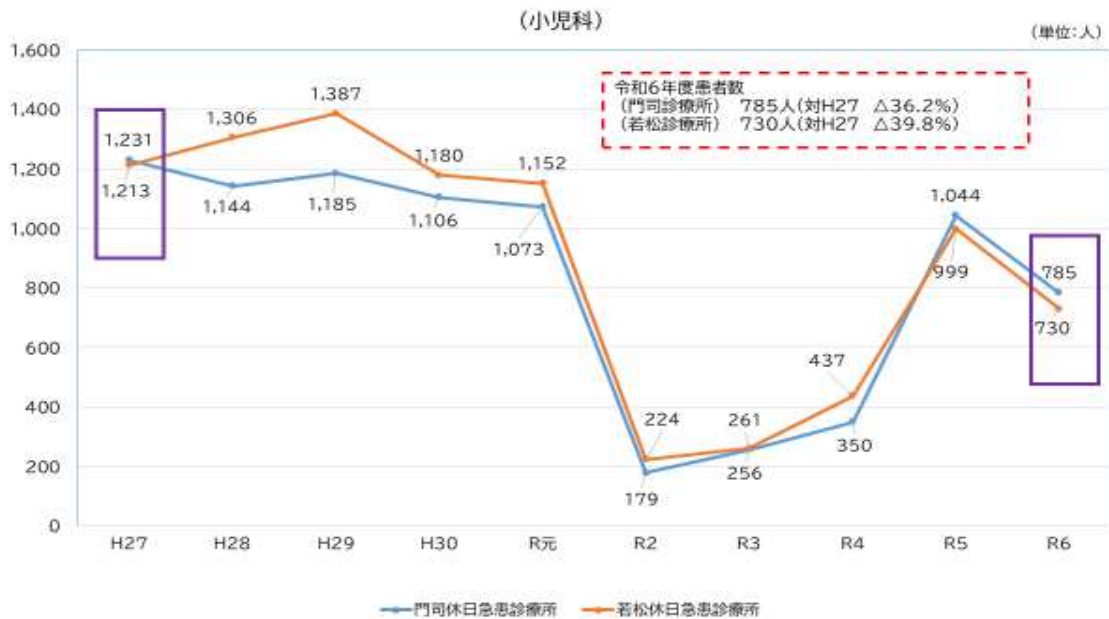
- (1)医療専門職等によるきめ細かな電話案内・相談体制の構築
- (2)適切な電話案内のための対応マニュアルの作成
- (3)AIもしくはオンライン等を活用したDX案内・相談機能の構築
- (4)受診の目安や判断を促すウェブサイトやアプリ等を活用した情報発信
- (5)SNS等による適正受診の啓発など情報発信強化やキャンペーンの実施

○図表 42：市立八幡病院での「小児1次救急専用診察スペース」設置のイメージ



- 課題
- 応援医師の受入調整の検討(市医師会、市など)
  - 応援医師の出務に係る委託方式の検討(市立八幡病院・病院機構、市医師会など)
  - 「小児1次救急専用診察スペース」の運用方法の検討(曜日、時間など)

○図表 43：門司・若松休日急患診療所の患者数の推移（小児科）



○図表 44：他政令市の急患センター等の時間外小児患者数について

政令市名	施設名称	令和6年度患者数	診療時間	運営方式
福岡市	福岡市立急患診療センター	24,278	○平日 19:30～翌7:00 ○土曜 19:00～翌8:00 ○日・祭・年末年始 9:00～翌8:00	市(指定管理:市医師会)
	福岡市立東急患診療所	1,323	○日・祭 9:00～17:00 ○年末年始 9:00～24:00	
	福岡市立南急患診療所	931	○日・祭 9:00～17:00 ○年末年始 9:00～24:00	
	合 計	26,532	-	
熊本市	休日夜間急患センター (熊本地域医療センター内)	12,310	○平日 18:00～翌8:00 ○日・祭 8:00～翌8:00 ○日・祭 9:00～翌8:00 ○年末年始 24時間	市(委託:市医師会)
	休日準夜間診療所 (熊本赤十字病院内)	1,515	○日・祭 18:00～24:00	市(委託:熊本赤十字病院)
	合 計	13,825	-	-
北九州市(※)	夜間・休日急患センター	3,568	○平日 19:30～23:30 ○日・祭等 9:00～23:30 ○年末年始 9:00～翌9:00	市(直営) ※医師出務調整など一部を 市医師会委託
	門司休日急患診療所	785	○日・祭 年末年始 9:00～17:00	
	若松休日急患診療所	730		
	合 計	5,083	-	

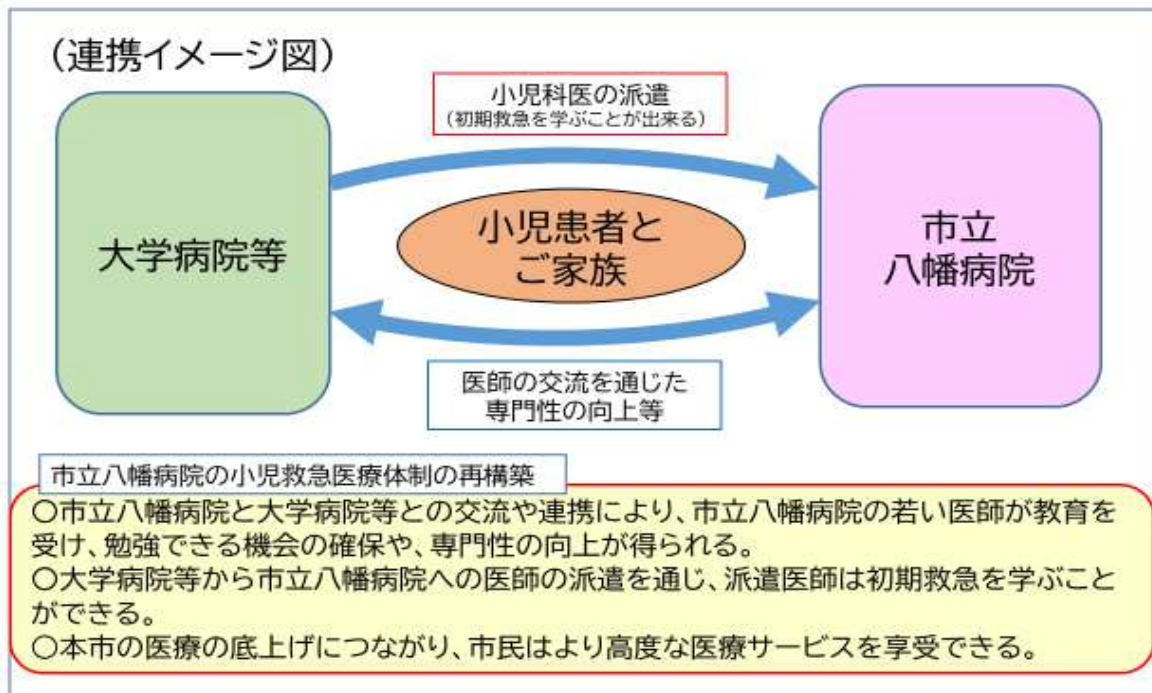
※北九州市では、急患センター以外にも、小児救急4病院において、多くの小児1次患者を受け入れている。  
 ※他都市の急患センター以外の医療機関の受入患者数は不明

<参考:北九州市「小児救急4病院」>

施設名称	令和6年度患者数	診療時間
北九州総合病院	6,435	○月～金曜 17:00～翌7:00 ○土曜 13:00～翌7:00 ○日・祭 9:00～翌7:00 (重症の場合は24時間365日)
国立小倉医療センター	7,514	24時間365日(受診前に問い合わせが必要)
市立八幡病院	23,068	24時間365日
JCHO九州病院	4,593	24時間365日
合 計	41,610	-

【出典】北九州市保健福祉局地域医療課調べ

○図表 45：市立八幡病院の大学病院等との連携について



○図表 46：「これまでの意見を踏まえた検討すべき対策案」の体系図

